健康

膵臓に嚢胞

発症リスク、精密検査を

中本　次郎
県立中央病院
医療局次長

質問　55歳女性です。超音波検査で膵臓に嚢胞（液がたまった袋）があると言われました。放置していても良いものですか。父親を膵臓がんで亡くしており、心配です。膵臓の精密検査はつらいと聞きます。できればつらい検査は受けたくありません。

回答　近年は超音波検査を含む検診の普及により、無症状の膵臓嚢胞が発見される頻度が増えてきています。肝臓や腎臓の嚢胞の場合、経過観察になることが多いのですが、膵臓に見つかった場合は注意が必要です。膵臓がんのリスク因子でもあるので、放置してはいけません。

膵臓嚢胞には、膵炎などの炎症によってできた仮性嚢胞と、それ自体が腫瘍である腫瘍性嚢胞があります。

治療の必要性、がんになるかどうかは、種類により異なります。まずは正確な診断が必要です。

超音波検査で膵臓嚢胞が発見された場合、その大きさや形、膵管の太さなどを調べるために、さらなる精密検査として造影CT検査、磁気共鳴画像装置（MRI）を使った検査、超音波内視鏡検査（EUS）が行われます。

中でも超音波内視鏡を使った検査が、膵臓の精密検査では最も有効とされています。内視鏡を口から消化管に挿入し、内視鏡の先から超音波を発生させ、胃や十二指腸の壁を通して膵臓をすぐ近くから観察する検査です。

苦痛を伴う少々つらい検査ですが、静脈麻酔をして行います。寝ている間に検査が終わっていることが多く、心配ありません。

腫瘍性嚢胞の中で最も多いのは、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）です。膵臓に袋を作る腫瘍の代表で、膵臓の中を走る膵管にドロッとした粘液を作る腫瘍細胞ができて、その細胞が出す粘液のために膵管が拡張する病気です。

IPMNは基本的に良性で、多くは症状がありません。しかし、がんにゆっくりと変化することがあります。IPMNがあると、IPMNとは別の場所に膵臓がんが発生することもあります。IPMNが見つかったら慎重に経過観察するのはこのためです。

なお、父親が膵臓がんだったことは、嚢胞があるのと同様に膵臓がんのリスク因子です。継続的に診察を受ける必要があります。

膵臓嚢胞を手術で除去するか、経過観察にするかを見極めるには幾つかのポイントがあります。主治医とよく相談してください。

（第4土曜掲載）

超音波内視鏡が有効

がん何でもQ&A

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
〈電088（634）6442〉
（平日午前8時半から午後5時まで）へ。